

「水辺の楽校」へ学生参加のご協力頂いた大学のご紹介

大学名	北海道教育大学
参加形態／人数	大学事務局が札幌校学生募集・水辺の楽校へ参加申込み／1人
参加日程／現場	平成25年8月17日／真駒内川水辺の楽校

○大学の視点

北海道教育大学学務部学生課

北海道教育大学では、教員養成課程において、学校支援ボランティア活動に対して単位を付与するなどして、将来教員を目指す学生が、教育実習等を経験する前から積極的に学校現場に関われるよう後押ししています。学校支援ボランティアの活動の主な内容としては、少人数指導の補助、個別指導の必要がある児童生徒の指導補助、総合的な学習の時間の指導補助、障がいのある児童生徒の指導補助、学校行事（野外学習ほか）における指導補助、水泳学習の指導補助、スキー学習の指導補助、部活動の指導補助、等々、様々なものがありますが、子どもたちと自然体験活動の場を一緒に経験する機会は、総合的な学習の時間の一部や宿泊学習などに限られており、学生によっては、大学4年間の間にほとんど経験する機会を得られないまま教員になる者もいると思われます。

「水辺の楽校」の活動に学生ボランティアとして関わることは、川辺などの水辺での動植物に関する知識や、川遊びにおける危険性・安全管理に関する知識を得る絶好の機会となり、学生自身の自然体験を豊かにすることにつながります。また、子ども達と一緒に実際に水の中に入って活動することによって、水中や水辺における子ども達の行動を予測する力も実地に養うことも可能と思われます。

本学は北海道内に5つのキャンパスがありますが、平成25年度においては、教員養成課程を擁し立地も水辺の楽校への参加が比較的容易な札幌校において、真駒内川水辺の楽校の活動に学生ボランティアとして参加を希望する学生を募りました。8/17の活動に申込みのあった学生達のうち、残念ながら当日は1名しか参加できませんでしたが、当該活動の翌週に地域の小学校の総合的な学習の時間を利用した真駒内川水辺の楽校の活動には、4名の学生が参加しました。参加した学生からは、座学だけでは得られない貴重な体験ができた、今後も機会があればぜひ参加したい、この体験は将来教師になった際に役立つと思う等々の感想が聞かれ、「水辺の楽校」の活動が教員を目指す学生達にとって大変有意義なものであることが窺われます。

大学としても、まずは学生ボランティアの参加人数を増やしていけるよう、今後も可能な限り力を尽くしたいと思います。そして、将来的には「水辺の楽校」の活動に、より主体的に関わっていく学生を育てていければ、と考えています。



○参加学生の感想

北海道教育大学1年 横藤 智

今回、私は「水辺の楽校」に学生ボランティアとして参加しました。活動は大きく2つに分かれており、川に入り魚を網で捕まえる活動と、川に全身でつかり川の流れていく活動をしました。魚を捕まえる活動をした後、水槽に集め、講師の方から魚の種類や特徴などについて教えていただきました。川流れでは足がつかないほど深い川だったため、川に入るのに躊躇していた子供もいましたが、一度川に入ると夢中になっていきいきと活動している姿が見られました。講師の方には、魚とりのコツや救命具の装着方法、安全ロープの使用方法など、川で活動する際に役立つ様々なことを教えていただき、私としても大変勉強になりました。

この「水辺の楽校」で非常に優れていると感じたことは、環境教育も兼ねている点です。最近では川が汚れてしまい、ある魚が見られなくなったなどという具体的な事例を出しつつ子供たちに環境について考えさせるきっかけを作っていました。座学だけではなかなか理解しがたい環境問題が身近なものになると感じました。

私は中学校理科教員を目指しており、今回の体験は私が教師になった際役立つ知識や技術が身についたという点で有意義なものになったと思います。秋や冬にも内容を変えて実施しているそうなので機会があればまたお願いしたいと思います。

<北海道教育大学札幌校のHPは↓こちら>

<http://www.hokkyodai.ac.jp/sap/outline/feature.html>



札幌校の特徴

地域貢献を通して教育実践力を向上させよう！！

札幌校では、学生・教職員が一丸となって、地域連携事業に積極的に取り組んでいます。特に、教育フィールド研究という科目では、札幌校と近隣の各市町の教育委員会とが提携して、各地の小・中学校に教育ボランティアとして学生を派遣しています。派遣された学生は、学校で、教科指導、特別支援教育、課外活動などの補助で活躍し高い評価を得ています。また、札幌校の特徴的な活動の一つである「土曜講座」では、学生が教員の指導のもと、今までに学んだ知識・技能を生かし、サイエンス・芸術・ものづくりなどの分野で、大学の近くの小学生から高校生までを対象に講座を運営・指導する機会が設けられています。